

五百句

五百句

虛

子

昭和十二年六月十三日印刷
昭和十二年六月十七日發行

(兩角製本)

五百句

定價 貳圓九拾錢

著者 高濱 虚子

發行人 山本 三生

東京市芝區新橋七丁目十二番地

印刷者 植田 庄助

東京市芝區濱松町一丁目十三番地

發兌 改造社

東京市芝區新橋七丁目十二番地
振替口座東京八四〇二番
電話芝(43)自一一二四番

刷印所刷印堂文成

名著複製全集 近代文学館 昭和44年9月

序

ホトトギス五百號の記念に出版するのであつて、従つて五百句に限つた。

此頃の自分の好みから言へば、勢ひ近頃の句が多くならねばならぬのであるが、然し古い時代の句にもそれ〴〵其時代に應じて捨て難く思ふものもあるので、先づ明治・大正・昭和三時代の句を略等分に採つたことになつた。

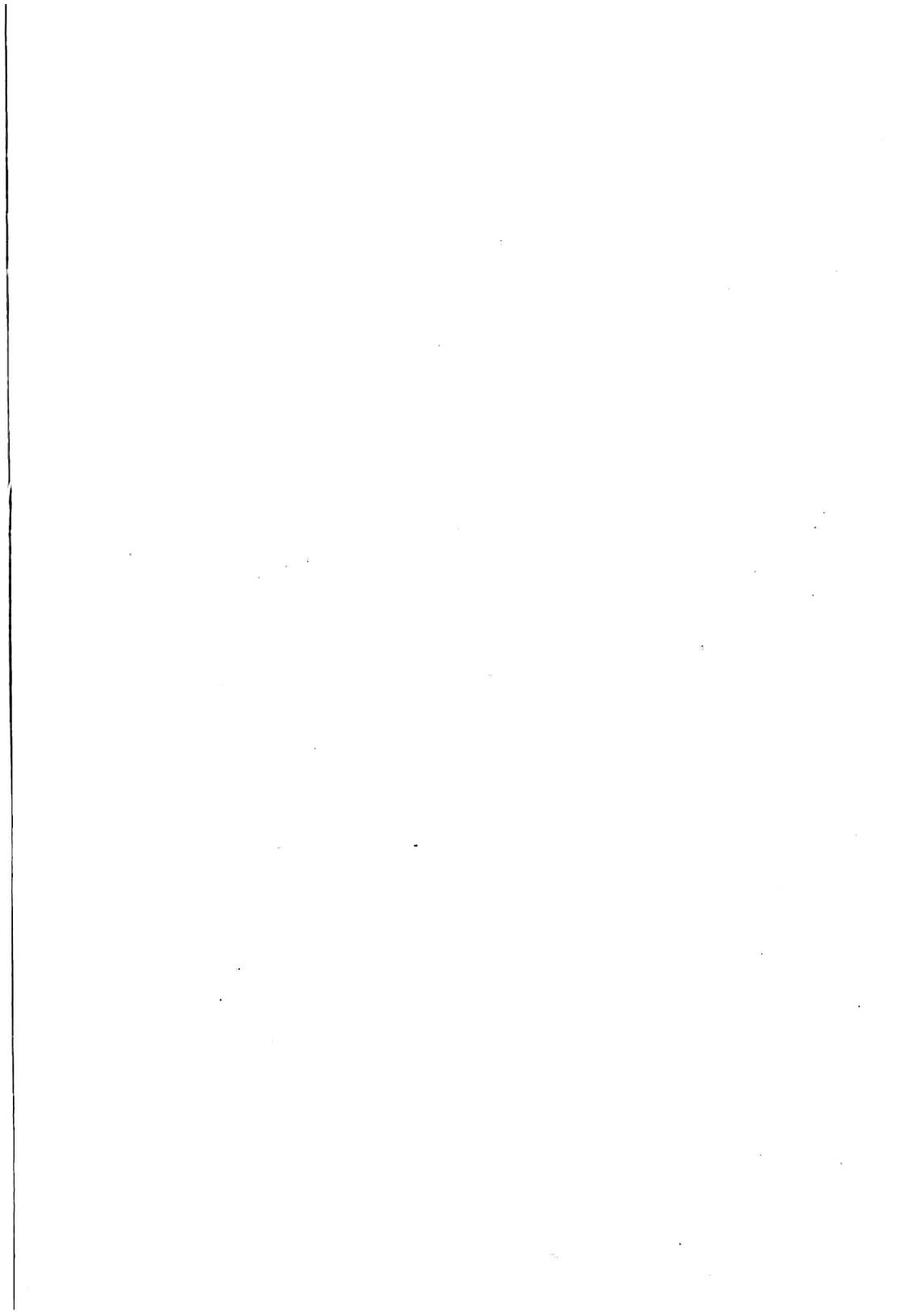
範圍は俳句を作り始めた明治二十四五年頃から昭和十年迄、即昭和十一年十一月二十日に出版した「句日記」の句までとしたので、其後の句は此集には洩れてゐる。

昭和十二年五月二十七日

ホトトギス發行所

高濱 虚子

明 治 時 代



春
雨
の
衣
桁
に
重
し
戀
衣

明治二十七年

夕
立
や
ぬ
れ
て
戻
り
て
欄
に
倚
る

明治三十八年

子規を神戸病院より、須磨保養院に送りて數日滯在。

風
が
吹
く
佛
來
給
ふ
け
は
ひ
あ
り

明治二十八年

八月。下戸塚、古白鶴盛に移る。一日、鳴雪、五城、碧梧桐、森々招集、蓮座を聞く。

し
ぐ
れ
つ
つ
留
守
守
守
る
神
の
銀
杏
か
な

明治二十八年

も
と
よ
り
も
戀
は
曲
者
の
懸
想
文

明治二十九年

怒
濤
岩
を
嚙
む
我
を
神
か
と
臚
の
夜

明治二十九年

海
に
入
り
て
生
れ
か
は
ら
う
朧
月

明治二十九年

大
根
の
花
紫
野
大
徳
寺

明治二十九年

山
門
も
伽
藍
も
花
の
雲
の
上

明治二十九年

繩
朽
ち
て
水
鶏
叩
け
ば
あ
く
戸
な
り

愚庵十二勝の内、清風關

叩
け
ど
も
く
水
鶏
許
さ
れ
ず

明治二十九年